

ブラジルのインフラ整備と空飛ぶ富裕層

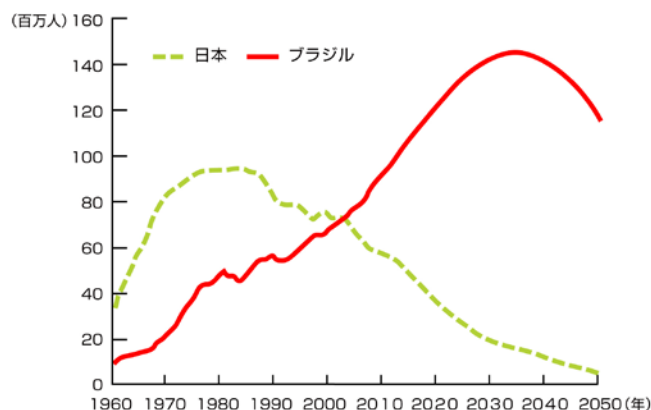
ブラジルで自動車の販売台数が伸びています。2010年には新車の販売台数でドイツを抜き、中国、米国、日本に次いで4位となりました。景気拡大によって中間所得層※¹が増え、消費行動が盛んになった証しと言えるでしょう。

急激な自動車の増加によって、ブラジルの都市部では交通渋滞が激しくなるという副作用も生じています。渋滞を嫌う富裕層には、ヘリコプターで移動している人も多いようです。NHKの調べによると、ブラジル経済の中心地であるサンパウロ市の個人所有のヘリコプター台数と、ヘリポートの数は、NYを抜いて世界で一番なんだとか。まさに「空飛ぶ富裕層」です。

また、ブラジルでは大規模なインフラ整備への投資が進められています。政府は2010年3月に、2007年から推進してきた経済政策の第2弾である「PAC2」を発表しました。投資総額は第1弾と合わせて2兆5,905億レアル（約109兆円※²）。道路の整備はもちろん、昨年9月にはサンパウロ市の中央部を東西に走る地下鉄2号線の新駅が開業するなど、公共交通機関のアクセス改善や交通渋滞の緩和策が着々と進められています。

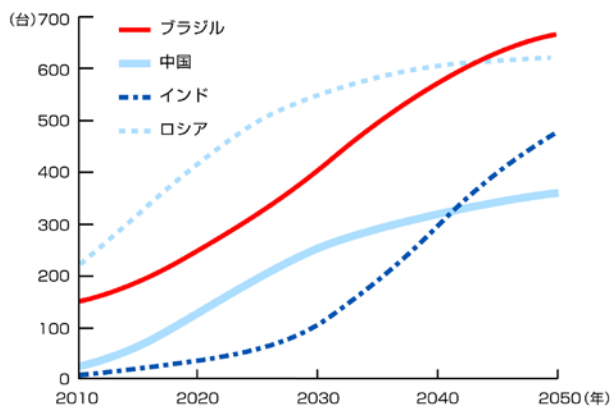
ブラジル経済は今ブームに沸いており、今後もブラジルのインフラ投資はますます拡大していくことでしょう。

中間所得層増加の推移(予測)



出所：ゴールドマン・サックス
「拡大する中間所得層（2008年7月）」

BRICs諸国の1,000人当たりの自動車台数(予測)



出所：ゴールドマン・サックス
「グローバル・エコノミクス・ペーパー 192」

※¹ 一世帯の可処分所得が年間6000ドル～3万ドルを中間所得層と定義。

※² 1レアル＝48.93円（2011年2月3日現在）で計算